

気をつけよう! 過保護と過干渉

子どもに向かって「ああしなさい、こうしなさい」と言ったり、
先に手を出しそうたりすることがありますか?
今回は、子育てで気をつけて欲しい過保護と過干渉について考えてみましょう。

広辞苑には、「過保護とは「子どもを育てる時に、必要以上に面倒をみること」、過干渉とは「自分の意思に従わせようとしすぎること」と書いてあります。

過保護な子育ては

自立心の妨げに

乳幼児の段階では、子どもが望んでいる事や要求することに対し、親が敏感に反応して無条件に応答してあげる、即ち必要以上に面倒をみてあげることが必要であり、それが過保護ということになります。乳幼児は自分が望んでいることを思い通りにしてもらうと満足して、ある時期になると満ち足りて自分から離れていきます。

しかし、幼稚園や小学校に通うようになった段階では、そうはいきません。初めは身の回りのことや生活習慣を身につけさせるため必要以上に手をかける必要がありますが、いつまでも過保護的な対応を続けると逆に依存心が強くなり、自立心が育たにくくなります。



子どもの意思と希望を応援する

過干渉にならないためには、親の意思を強制することは止めて子どもに思っていることを自由に言わせることです。子どもは話すことでの自分の考え方、気持ちを自分の言葉で表現し、自己主張します。それを親が聞き、受け入れてあげると、子どもは自分が認められたと思つて満足するでしょう。自己主張ができることは、子どもの成長に必要なことであり、自信を持つことにもつながります。

さらに親が干渉しすぎて、子どもがしたいことを我慢させ、親がやつて欲しいことばかりをやらせすぎると、子どものやる気をそぐことになり自主性と主体性が育ちません。そして親の評価ばかりに心を奪われ、褒められることだけをするようになります。それは子どもの本来の行動ではなく、これが思春期まで続くと自己不全感（自分がない）が強くなり、自分に自信が持てず集団生活に適応することが難しくなります。不登校や摂食障害、適応障害、ゲーム依存症などで心療内科を受診する子どもにそのような子どもがみられます。

子どもの気持ちに耳を傾ける

過干渉にならないためには、親の意思を強制することは止めて子どもに思っていることを自由に言わせることです。子どもは話すことでの自分の考え方、気持ちを自分の言葉で表現し、自己主張します。それを親が聞き、受け入れてあげると、子どもは自分が認められたと思つて満足するでしょう。自己主張ができることは、子どもの成長に必要なことであり、自信を持つことにもつながります。



先生のご紹介

増田 彰則

心療内科 増田クリニック

PROFILE

鹿児島市・増田クリニック院長。さつま町出身。内科学、心療内科を専攻。中でも疲労、痛み、うつ病、不登校、小児心身症、神経症などが専門です。



増田クリニック
携帯版HPに
アクセス
できます▼



ネット・ゲーム依存症の家族会

毎月第3木曜日 【参加料】1回1,000円 【時間】10:00～12:00
【場所】ケアサポート清瀬 【お申込】099-201-3600
月1回の、ネット・ゲーム依存の子どもをかかえた親の会です。
依存についての知識と対応の仕方を学びます。
参加希望の方はお電話ください。

 http://www.myclinic.ne.jp/masuda_di/pc/
増田クリニック

TEL. 099-219-1155

〒892-0845 鹿児島県鹿児島市樋之口町2-24

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00～13:00	○	○	/	○	○	○	/
14:30～18:30	○	○	/	○	○	○	/

受付時間：午前8:30～12:00 午後14:00～18:00
休 診：水・日・祝・お盆・正月